

# 学級学年の文化

だれもいない一年C組の教室に入りました。ホワイトボードを見ると、一時間目が理科となっていましたので、「さっきの楽しそうに授業をやっていた学級なんだな」と気付きました。

先程見たのは、理科担当の〇教諭の話を食べい入るように聞きながら、それでいて彼がちよつと脱線すると全員がニコニコしながらそれに応える生徒たちの生き生きとした姿でした。「生徒たちの気もちがそろっているなあ」と、私はその様子を見てすぐに思いました。

改めてホワイトボードを見ると、一年C組の生徒の気もちのそろい具合が、そこに表れているように感じました。一画一画丁寧に書かれた文字、誤字脱字はありません。しっかりと色分けされた持ち物と宿題。そして、何と言っても、文字の大きさです。これなら教室の隅に座っている仲間も難なく読めることでしょう。丁寧な筆跡、適切な大きさの文字で書かれていることに、この学級の優しさを感じました。

日常生活において何気なく書かれる文字一つとってみても、何を意識して取り組んでいるかがわかります。自分のノートならば、読み手は自分ですので、多少乱雑に書いても、小さな文字で書いても構わないかもしれませぬ。しかし、それが多くの人が目にするものであれば、勝手気ままに書くことがあってはなりません。

ホワイトボードの記入スペースが小さければ、教科担任から聞いたそのままを記入するのではなく、そこから取捨選択をして記入する内容を考え、だれもが読める適切な大きさの文字を丁寧に書かなければなりません。その教科の係は学級に自分だけなので、記入した内容が適切で、記入の仕方がだれにとっても優しいものであるかにこだわるべきだと私は思います。教科係は伝達係ではありません。その教科においては、学級の責任者なのです。一文字もおろそかにせず学級に貢献してほしいものです。

これから、キャンペーン活動が盛んになると、各学級や学年の成果や結果を記入する一覧表が作られるでしょう。そこに学級ごと学年ごとに成果や結果を記入するのですが、見る人が不愉快になる〇や×、コメントを記入してはいけません。〇一つを記入する時でも、その学級を代表して書くのですから、丁寧に適切に書くべきです。それがその学級学年の文化であり、言語文化というものです。言語を大切にすることは、文化を高めることになるのです。

(四月十五日 記)

科目	内容	日直
1 理科	生物の姿 理科室	持ち物 宿題
2 国語	朝のルー	パスポートの紙
3 数学	素因数分解の利用	
4 社会	地球の姿	
5 保体	オリエンテーション	男女いしよに筆記用具を揃えて体育館へ(体育館へ行く)
6 英語	小文字と辞書の使い方	